

文化・芸術

「青の風景」

1940年、油彩、カンバスボード
23・5センチ×33・0センチ



松本竣介 (1883～1955年)

本作は、松本竣介が家族と暮らした東京の淀橋区下落合（現在の新宿区中井）周辺の風景を描いたものといわれています。

新宿の繁華街からもほど近いこのあたりは、現在は都心の閑静な住宅街といったたずまいですが、本作が描かれた1940年は都会というよりも、豊かな森のあるのどかな郊外でした。本作では、青や白の爽やかな色彩を基調とし、建物や木々を表しています。特徴的なのは、単純化した形とマッス（量塊）によって対象をとらえ

《名画の扉》

大川美術館コレクションから

この作品は、7月19日から、「戦後80年松本竣介と同時代の画家たち」展でご覧いただけます。（佐藤）